

平成30年度 発達支援相談事業経過報告 (30年12月末時点)

※H29年度実績数は29年12月末時点

1. 早期発見、早期フォロー体制の継続

◎5つの専門相談

発達相談(心理士による相談)・OT相談(作業療法士による相談)・ことばの相談(言語聴覚士による相談)・発達クリニック及び発達支援クリニック(小児科医による相談)を実施。
実績数は増加傾向(表1)。29年度に引き続き作業療法士1名が育児休暇中で、作業療法士1名体制で対応した。
相談利用児の年齢は、就学前の割合が高い傾向は例年と同様である(表2)。

◎遊びの教室(小集団親子教室:就園前の児童と保護者が対象)

2クール(前期と後期 各11回)開催し、前期12組・後期14組の参加があった。全員が何らかの発達支援相談を利用中である。1組に療育の紹介を行った。

◎のびのび教室(保護者が子どもの行動の見方を学ぶプログラム)

発達支援相談と療育を利用している保護者に案内し、3人の参加があった。1月から2クール目を開催予定。
子どもをほめる関わり方を積極的に学ぶ保護者の姿が見られ、実生活で実践している発言がきかれた。
参加者のうち、小さい子どもを持つ保護者にとって先輩保護者の話が参考になるとの声もあった。

◎母子保健事業との連携

ケースや乳幼児健診を中心に連携を実施。専門相談・遊びの教室・園巡回相談等は、保健医療課の協力のもとで実施ができており、早期発見・早期支援にとって重要な連携先となっている。

(表1) 発達支援相談利用者数

年度	実人数			相談別人数											
	男子	女子	合計	発達相談		OT相談		言語相談		発達クリニック		発達支援クリニック		相談参加	
				実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
H29年度	159	75	234	148	183	117	156	42	67	7	8	4	5	318	419
H30年度	196	68	264	167	200	146	184	55	66	8	11	7	7	383	468

(表2) 年齢別相談実人数

	0才児	1才児	2才児	3才児	4才児	5才児	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中1	中2	中3	高1	高2	高3
H29年度	6	21	42	49	41	47	10	6	3	2	1	4	0	0	2	0	0	0
(割合)	2.6%	9.0%	17.9%	20.9%	17.5%	20.0%	4.3%	2.6%	1.3%	0.9%	0.4%	1.7%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
H30年度	7	23	44	55	49	54	20	6	2	1	0	1	0	0	0	1	1	0
(割合)	2.6%	8.7%	16.7%	20.8%	18.5%	20.4%	7.6%	2.3%	0.8%	0.4%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%
	87.7%						12.3%											

(表3)相談経路別実人数

	経過者	保護者	健診	保健師	保・幼	学校	保健所	その他	健診				
									乳児 前期	乳児 後期	1.8 健診	2.5 健診	3.5 健診
H29年度	103	14	62	1	25	7	0	22	0	4	17	24	17
(割合)	44.0%	6.0%	26.5%	0.4%	10.7%	3.0%	0.0%	9.4%	0.0%	6.5%	27.4%	38.7%	27.4%
H30年度	153	15	63	5	19	2	0	7	0	2	17	25	19
(割合)	57.9%	5.7%	23.8%	1.9%	7.2%	0.8%	0.0%	2.7%	0.0%	3.2%	27.0%	39.6%	30.2%

(表4)発達支援相談の最終フォロー人数

	相談 継続	終了	
		医療紹介	終了
H29年度	174	11	49
(割合)	74.4%	4.7%	20.9%
H30年度	191	15	58
(割合)	72.3%	5.7%	22.0%

2. 児童発達支援事業の体制整備

関係機関と連携をとりながら、随時受け入れ体制の調整を行った。
その他、別紙資料参照(つくし園より報告。)

3. 保育所・幼稚園巡回相談事業と学童期への連携の継続

園巡回の実績数は増加傾向(表5)。特に運動プログラムでは、プール指導の要望が多かった。
学童期連携の実績は、昨年度と同傾向(表6)。

(表5)園巡回相談数

	園部		八木		日吉		美山		合計		運動プロ グラム
	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	
H29年度	6	50	4	16	4	14	5	35	19	115	18
H30年度	9	54	5	25	6	24	4	23	24	126	26

(表6)学童期への連携数 (個別相談後の新小学1年生ケース連携・参観:小学校及び放課後児童クラブ)

	合計	
	巡回数(延)	児童数(延)
H29年度	28	120
H30年度	29	136

4. 就学後の支援体制の継続

放課後児童クラブ、学校巡回を実施。実績数は昨年度より減少(表8)。

(表8) 就学後支援数 (新小学1年生以外)

	合計	
	巡回数(延)	児童数(延)
H29年度	15	71
H30年度	8	39

5. 関係機関との連携の継続

支援ファイルと移行支援シートを配布。
病院同伴受診、ケース会議等を通じて情報共有を実施。

(表9) 支援ファイル配布数

	中学生	小学生	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	計
H29年配布数	0	1	8	2	0	0	0	11
H30年配布数	0	1	10	2	0	1	0	14
全保有数	7	97	28	9	2	1	0	144

(表10) 移行支援シート活用数

	保育所→小学校	小学校→中学校	中学校→高校
H29年配布数	1	0	0
H30年配布数	10	0	0

